

時習 三月②号

三月 十四日

いよいよ今週末第六十四回卒業式



今年度は、八十三人の卒業生です。「感謝の心」で卒業して欲しいと伝えていきます。

感謝の心を体で表して欲しいと在校生にも伝えていきます。

嬉野小学校スピリッツを心に持つて卒業して欲しいと願っています。

○元気いっぱい、あいさつ名人

○やる気いっぱい、聞き方名人

○笑顔いっぱい、やさしき名人

元気も、やる気も、笑顔もその時だけでなく、ずっと続けることが本当のスピリッツです。

五年生は、卒業式練習のため、これまでの六年生がしたように、毎朝体育館のシート敷きを頑張つてやつてきています。よき伝統が受け継がれています。

在校生の歌や贈る言葉にも「真心」がこもっています。

三月十八日の本番では、最高の姿を見せてくれるのではないのでしょうか！



東北地方太平洋沖地震について

(1) 災害の概要

・三月十一日一四時四六分東北地方で発生
・関東地方の地震と、それに伴う津波によって、多くの尊い命が失われ、数万人の安否が不明であること。

・マグニチュード9.0という史上例を見ない規模の地震であり、死者、行方不明、家屋の全半壊など、未曾有の被害が予測され、また、被害の実態は、もうしばらく正確に把握できそうにない状況であること。

(2) 哀悼の意

・亡くなられた方々、その中には多くの児童生徒も含まれていることを思い、深くご冥福をお祈りし、被災し避難されている方々の安全が少しでも早く確保されることを願うこと。

(3) 復旧と国際支援

・国や地方自治体が、自衛隊や消防機関をはじめとする様々な防災機関が懸命の救命・救助活動が続けるとともに、電力・ガス、水道、交通事業者などがライフ・ライン復旧に総力を挙げて取り組んでいること。

・世界の多くの国々から救助隊の派遣や支援がなされている事実に触れ、国際協力や国際交流の大切さと、国を越えて感謝の気持ちを保持することが大切であること。

(4) 地震や防災に対する意識心構えの涵養

・このようなことを他人事と思わず、このよ

うなときこそ、自分たちの日常生活を振り返り、非常事態が生じた場合、どのような行動をとるべきなのかについて、家族や友だちと話をしておくことが大切であること。

(5) 今自分たちにできること

・かけがえのない命の尊さを思い、罹災された方々、そして懸命に救命・救助活動をしている人々がいることに思いをはせ、何か自分たちがすべきことはないのか、何かできることはないのかを考えること。

※ 以上のことを、今朝の卒業式全体練習の時に、全校児童に話しました。そして、全員で「冥福を祈り、黙祷を捧げました。」

天災が起きた最初の瞬間から日本の政府、民間人が見せた冷静で秩序だった行動に、改めて日本の民度の高さを感じた。その特長を列挙すれば以下のような点が挙げられる。「地震後もパニックはなく治安はよかった」「メディアはプロフェSSIONナルで不安を煽るようなことはなかった」「手抜き工事が原因の被害は伝えられていない」「政府の危機対処は落ち着いている」「情報を公開し、外国の救援隊を拒むこともない」。日本人が見せた民度の高さと災害への対応能力。世界に与えた印象はとても強いものとなった。(外国新聞より)

まさに、日本の教育の底力を発揮しているようで、辛い中にも勇気がわいてきました。本校企画委員会やボランティア委員会もすぐ行動を起こしてくれています。亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。